

## V. 発表

### 1. セミナー

#### (1) 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会企画セッション（ごみ文化研究部会共催）

- ①テーマ：「日本の3R体験を国際貢献に生かすために」
- ②日時：平成22年11月6日（土） 9時～10時30分
- ③場所：金沢市文化ホール3F、第5, 6会議室
- ④趣旨

1980年代から21世紀初頭にかけて、韓国、シンガポール、台湾、香港などかつての新興工業国・地域の台頭に続き、タイ、マレーシア、BRICSなど世界の各地で活発な工業化の波が広がった。この波はとどまることなくベトナム、インドネシアなどにも及ぼうとしている。工業化の進展著しいアジアの循環型社会構築に向けて、日本の情報発信や支援などの取り組みが重要なことはいままでもない。一方、途上国ではリサイクルが盛んであるものの、それが環境や健康に課題を呈している面もあり、必ずしも日本のめざす循環型社会への取り組みと整合しているわけではない。また伝えるべき日本の3Rの経験も、個々の技術や制度だけでなく、その背景となる価値規範や地域社会のあり様を相互に理解する必要がある。3Rの施策を安定的に持続させるためには経済的インセンティブや市場とのリンクなど、産業側の取り組みが不可欠であり、その点でも日本の経験は貴重である。そこで、本年は以上のような視点に基づき、経験を踏まえた報告と討議により、内容を深めたい。

#### ⑤ プログラム

##### 第一部 報告

- 1. 「日本の3R制度・技術・経験の変遷に関する研究」八木美雄（廃棄物研究財団）
- 2. 「日本の3R経験と産業政策」小島道一（アジア経済研究所）
- 3. 「エコタウン事業と国際貢献の経緯」松本亨（北九州市立大学）
- 4. 「途上国における3Rと日本の目指す循環型社会」藤井重雄（廃棄物研究財団）

##### 第二部 ディスカッション

代表研究者の八木が司会を務め、報告者、会場参加者と議論を深めた。

#### ⑥参加者 50名

## (2) 「3R・循環セミナー、日本の3R体験～海外に何を伝えるか」

①日時：平成23年 2月18日(金) 13:30~16:00

②場所：都道府県会館 402 会議室

③講演

1. 「日本の3R体験及び移転促進に関する研究」 八木美雄 (破棄物研究財団)
2. 「3Rのごみ処理史のあれこれ 日本はどう対処してきたか」 溝入茂 (早稲田大学)
3. 「産業界&産業政策による3Rの60年」 稲村光郎 (廃棄物資源循環学会)
4. 「リサイクル・3Rという言葉の誕生と変遷、その意義と課題」  
大澤正明 (日本環境衛生センター)
5. 「NPOによる3R経験の移転」 山本耕平 (ダイナックス都市環境研究所)

④パネルディスカッション「日本の3R体験、何を伝えるか」

代表研究者八木の司会のもと、分担研究者、協力研究者、会場参加者と議論を深めた。

⑥ 参加者 66名

## 2. 投稿等

### (1) 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会発表 (平成22年11月、金沢市)

- ①稲村光郎・八木美雄「戦後日本におけるリサイクルの道程—古紙の事例にみる—」
- ②山本耕平「3Rガバナンスにおける産業界の活動の変遷と役割 (容器包装問題を中心に)」
- ③溝入茂「第二次大戦下の3R」
- ④大澤正明「リサイクルという言葉の誕生から3Rへの変遷」

### (2) 投稿

- ①山本耕平「ベトナム・ホイアン市の3Rの取り組み—草の根技術協力の成果」  
廃棄物研究財団・3Rだより (NO.79,2010.7)、廃棄物研究財団
- ②大澤正明「廃棄物の適正処理と3R(1)~(9)」都市と廃棄物  
Vol.40,No.9~Vol.41,No.5、2010.9~
- ③稲村光郎「日本の廃棄物処理の変遷 戦後編 第一回尿尿の嫌気性消化方式の誕生」  
季刊環境技術会誌、2011年4月(143号)

### (3) その他

研究成果が膨大なものとなっており、今後、「廃棄物・3R史」の発刊を目指しつつ、廃棄物資源循環学会等の場を通じて発表を行っていくこととしている。